

週日の説教

トマス・アキナス 神父 2009年3月20日(金)

金 大烈神父様の同時通訳にて

《聖母マリア様への四つの信心》

洗礼を受けた人々を私たちはキリスト者と言います。プロテスタントの信者もキリスト者であり、カトリック信者もキリスト者です。どちらもイエス様を信じているというところは同じなのに、聖母マリア様を見る目は違います。

カトリック信者でもプロテスタントの信者でも、聖母マリア様の見方にはだいたい4つの種類があります。

一つ目の種類の信者は、聖母マリアに全然関心を持っていない人々です。関心がないだけでなく、非常に敵対する心を持っている人々もいます。もちろんカトリック信者よりもプロテスタントの信者にそういう人々が多いでしょう。おそらく皆様の身内や近所の人々、友だちの中にもプロテスタントの信者がいると思います。そのプロテスタントの信者の人々が、カトリック教会はマリア教だ、と言っているのを聞いたこともあるかもしれません。全員ではありませんが、一部には、聖母マリア様に敵対心を強く持っている人々がいるのは確かなことです。しかし、マリア様に敵対心を持っている人自身には何の罪もありません。間違えたことを教えた聖職者達に一番大きい罪があると思います。牧師さんが、マリア様を "サタンの娘" と教えている教会もあります。また、聖母マリアはイエス・キリストをこの世に誕生させるために、ただ母胎を貸しただけの女性にすぎない、という人もいます。しかし、全てのプロテスタント信者が聖母マリア様を知らないわけではありません。カトリック信者よりもっとマリア様を愛している牧師さんもあるし、信者さん達もいます。昨日(3/19・金)の説教の中で、甘谷(ガムゴク)の小教区の聖地で目の見えない牧師さんの目が開いた話を申し上げました。実際にその聖地には、たくさんの牧師さん達が訪れています。良心的な牧師さんならば、聖書の中に書かれている内容を無視することはできないと思います。簡単に言いますと、イエス様は聖母マリア様をとおしてこの世に現れたのです。ですから良心的な牧師さん達は、そのようなプロテスタント教会の要理に対して対策の必要性を感じています。教会から私たちのお母様を追い出した、と。良心の痛みを感じて、甘谷(ガムゴク)聖地まで訪れて来る牧師さん達がほとんどです。昨年からは、あらかじめ、プロテスタント信者であることをと告げてから巡礼に来ています。昨年10月頃、目の見えない牧師さんが来ました。目は開いているのに見えない牧師さんでした。その牧師さんのお父さんも、弟さんも牧師さんでした。幼いときから、父親の牧師さんからカトリックについてよい話を聞いた記憶がないようでした。特に聖母マリア様について話しをすると、お父さんはものすごく怒ったそうです。「マリアはキリストの敵である」と言い、神学的な言葉の "敵キリスト" という表現を使ったそうです。キリストの敵と言うのは結局サタンのことです。子どもの頃から、牧師であった父親からいろいろな偏見のある話を聞いていた人が、甘谷(ガムゴク)聖地を訪れたこととなります。この牧師さんは、目が見えないかわりに、霊的にとても清い人でした。何回も聖母マリアを見た体験があったそうです。ですから彼は、聖母マリア様を通らなければ神様のところには行けないという確信を持っていました。カトリック信者から個人的にロザリオの祈り方などを習い、5年前から欠かさずに毎日4環、祈ったそうです。手首にはいつもロザリオがつけられていました。そして私に、このような質問をしました。「牧師である私でも、毎日ロザリオの祈りを4環くらいは捧げているのですから、カトリック信者の方々は、もっとたくさんロザリオの祈りをなさっているのでしょうかね。」と。皆様、いかがですか。毎日4環祈っていらっしゃるでしょうか。三度の食事は欠かさず召し上がっていらっしゃるでしょうか、ロザリオも毎日欠かさず祈っているでしょうか。その牧師さんは、牧師でも4環を捧げてい

るのだからカトリック信者ならば当然4環以上捧げるのだらうと思ったようです。ですから、神父である自分は、その牧師さんをはっきりさせたくなくて、「カトリック信者は基本的に毎日口ザリオを8環捧げています。」と嘘をつきました。そして翌週、赦しの秘跡を受けました。(笑い話)

次の日曜日のミサの時、彼は一番前の右側の席に座っていました。目は見えないけれど、説教をしている私を見ているように思えました。一言終わるたびに「アーメン」「アーメン」とつぶやくような声が聞こえました。皆様、「アーメン」の意味をご存知ですね。「御言葉がそのとおりになるように祈ります。」という意味です。ある意味では、一番力強い祈りはアーメンという言葉です。聖母マリア様は、そのような祈りをなさったのでしょうか。聖霊によって赤ちゃんが宿られたとき、「お言葉どおりになりますように」という返事をしました。私は時々、プロテスタント教会に行って話をする機会があります。プロテスタントの信者は、アーメンという言葉は何度も何度も口にします。カトリック信者の場合、黙想指導をしていても一日に1回か2回くらいです。

そのミサの後、牧師さんは売店で聖母像を買って来て、「祝福してください」と頼みました。そして、跪いて祝福を願い、涙を流しながらその聖母像を抱きしめて帰りました。

二週間後、彼から泣き声で電話がかかってきました。「どうしたらよいでしょうか、神父様。」と。牧師の身でありながらカトリック聖地に来たので、自分の教会の信者達から非難されたのではないかと心配になり、「聖母の聖地に来て、そちらの信者さん達に叱られたのでしょうか。」と聞いてみました。しかし彼は、「いいえ、そうではありません。数日前から目が見えるようになったのです。何とか形が見えるようになっています。」と答えました。更に彼は、「次に甘谷(ガムゴク)聖地に行った時、ミサでご聖体をいただく許可をいただきたいのです。」と続けました。

皆様、プロテスタントの信者がご聖体をいただけるのでしょうか。いただけませんね。教会法で許されていません。ただし、ヨーロッパの教会では、プロテスタントの信者がミサに与るときに本人の望みがあり、担当司祭が司教様に連絡して許可をいただければご聖体を授ける場合もあります。しかし、韓国地方教会では、司教会で禁止されています。ですから私は、「牧師さん。すみませんが、私はこれをあなたに授けることはできません。」と答えました。でも本心を言えば、聖母マリア様が目を見えるようにした牧師さんですから、霊的にご聖体をいただける十分な資格をもっていらっしゃると思いました。しかし、教会法上、それはできないことです。それを考えてみますと、皆様は本当に幸せな方々です。平日のミサに与ってご聖体をいただけます。望めばいつでもいただけるのがご聖体ですから、私たちは時々、その大切さ、尊さを忘れてしまいがちです。この牧師さんの一番大きな望みは、皆様がいつもいただいているご聖体をいただくことでした。

彼は今、誰からも助けをもらわずに一生懸命に聖地を訪問しています。彼の牧師としての仕事は、相談や面談をすることだそうです。面談するとき、自然にマリア様のことについて話をするのだそうです。面談の相手が、初めは不審な目で見ているのに、最後には聖母の大事さについて認めて帰る体験をしています。意外にプロテスタントの教会の牧師さんたちの中にもマリア様への信心が深い人々のいることがわかっています。知らないから、愛することができないのです。では、カトリック信者である私たちは、マリア様について温かい深い関心を持っているのでしょうか。カトリック信者なのに一年に一度も口ザリオの祈りをしない人もいます。飾りやお守りとして口ザリオを車にかけただけで、祈りを捧げていない人もいます。司祭達はみんなマリア様に対して愛情を持っているのでしょうか。司祭に叙階されることによって、今までなかった聖母信心が突然生まれるわけではありません。シスターたちも同じことです。一日1環口ザリオの祈りを捧げるからといって、その人の聖母信心が深いとは言えません。司教様達も同じことです。ユニフォームが聖母マリア様に対しての信心の深さを決めるわけではありません。

私が属している青州(チョンジュ)教区の司教様は、聖母信心が全くなかった方です。しかしある日、次のような話を私になさいました。

「私はもともと聖母マリア様に対しての信心がありませんでした。神学生の時にも神父になってか

らも司教になってからも聖母信心はほとんど持っていませんでした。直接イエス様に祈ればよいのになぜマリア様をとおして祈る必要があるのか、疑いました。子どもの頃から身についた祈りですから、毎日1環は捧げましたが、その意味はあまり感じられませんでした。聖母マリアを見る目は本当に冷たいものでした。しかし、5年前にある事件が起こりました。この甘谷(ガムゴク)聖地に堅信の秘跡を授けるために来ましたが、秘跡を授けながら倒れてしまいました。そして、ソウルにある病院に運ばれて脳の手術を受けました。甘谷(ガムゴク)聖地で秘跡を授けた後は、翌朝早くアメリカに行く予定でした。医師の言葉によると、この教会で倒れたのは本当に幸いなことだったそうです。その状態でもし飛行機に乗っていたならば、脳はやぶれてしまったでしょう。そのとき私は悟りました。マリア様が私を生かしてくださったと。それまで聖母マリアに見せたいろいろな態度、心、振る舞いを考えると本当にすまなくて、涙を流しながら悔い改めました。」

今のところ、司教さまは、聖母マリア様に対して深すぎるくらいの愛情を持っていらっしゃると思います。聖母マリア様への信心もほかのことも同じですが、体験ができなければ、理論だけでは、理解することはできません。

カトリック信者だからみんながマリア様に対して温かい心を持っているとも言えないし、プロテスタントの信者だから冷たい視線を持っているとも言えません。カトリック信者でも聖母マリア様を体験できなければ冷たい視線を見せるのはあたりまえです。逆にプロテスタントの信者でも体験ができれば温かい視線をマリア様に見せるでしょう。

二つ目の聖母信心について申し上げます。ほとんどのカトリック信者がこれに当てはまります。理論的な関わりです。イエス様のお母様、神様のお母様であることを要理で勉強してわかってはいます。しかし、知識としてわかっているだけです。ほとんどのカトリック信者がこの部類に入るのはないかと思います。

三つ目の聖母信心です。聖母マリアを"ママ"と呼び、愛する気持ちを感じている人々です。日本語でも"お母様"と"ママ"という二つの呼び名がありますね。韓国では、"オモニ(お母さん)"と言うと、難しく距離があり、礼儀を守らなければならないイメージがあります。日本語では"お母様"と言いますね。たぶん、日本でも嫁は姑に距離を感じて"お母様"と呼びかけますね。しかし、自分を産んでくれた母親には気軽に"ママ"と呼びかけます。私も弟サベリオも大人ですが、今でも電話で母と離すときには、"ママ"と呼びかけるのは仕方ないことですね。そういう意味で"お母様"と呼びかけるのと"ママ"と呼びかけるのでは違います。

軍隊付きの神父(従軍神父)だった頃、お金が集まると聖母のご絵を買い、いつもポケットに入れていました。そして兵士達を見ると1枚ずつあげていました。これからはこの方がママになるから覚えておくように、と何万枚も兵士達にあげました。

皆様、"メジュゴリエ"という言葉をご存知ですね。メジュゴリエの聖母マリア様からは毎週土曜日にメッセージが出されています。そのメッセージは他の聖母のものとは少し違っています。マリア様が直接メッセージを話すわけではなくて、メジュゴリエのマリア様を体験したいろいろな人々が毎週土曜日に証言をするのです。そのメッセージの中にこのようなものがありました。「私をマザーと呼ばずに、マミと呼んでほしい。」と。私にはそのメッセージより前から、"お母様"とは呼ばずに、"ママ"呼びかける習慣がありました。興味深いのは、"ママ"と呼ぶとき、みんなの目に涙が宿っているのを感じる事です。聖母マリアは皆様のママです。気兼ねする存在と考えるいけません。彼女に頼めば何でもくださいます。この世の中の争い事に勝つための一つの武器は、ロザリオです。いつも手から離さないようにしてください。ロザリオの祈りをしなければその人はカトリック信者ではないことを胸に刻んでください。ロザリオの祈りを軽んじるのはカトリックの信者ではありません。

4番目の聖母信心について申し上げます。それは偽の聖母信心です。聖母信心には、聖霊の働きの場合と悪霊の働きの場合があります。悪霊も霊的な存在ですから能力を持っています。悪霊の働きも聖霊の働きのように見える場合がよくあります。サタンというものはイエス様の顔を見せながら現れ

る場合が多いのです。時には聖母マリアの服を着て現れることもあります。そのような時のために、霊的な分別、わきまえることが必要です。サタンは時々聖母の姿で現れて、信者を分裂させます。聖母の聖地として騒いでいる場所でも実は悪霊のいたずらである場合が時々あります。韓国にもそのような場所がいくつかあります。特に韓国人の聖母信心はかなり深いので、サタンはそれを利用します。聖母信心の深い国民を妨げる一番良い方法は、聖母の姿を借りて現れ、だますことです。もしかしたら皆様も耳にしたことがあるかもしれません。韓国の全羅道(チオルラド)に羅州(ナジュ)という場所があり、羅州(ナジュ)の聖母が現れる、という話です。もしそこから招きがあっても絶対応じないようお願いします。実際にいろいろな国々からたくさんの巡礼客が来ています。司教様たちは、ここに来る巡礼団はカトリックの集団ではないとはっきり発表しました。そしてそこにカトリック信者が訪れたら、破門されることも司教会で決めました。韓国では、いろいろな奇跡がおこると言われ、偽のビデオテープなどにだまされてそこに通う信者がいます。絶対そういうところには行かないください。日本人が一番多く訪れているのです。羅州(ナジュ)というところは絶対聖母の聖地ではありません。

最後に、それが本当に聖母マリア様からのメッセージかどうか識別する伝統的な方法が3つあります。

一つ目は、メッセージの内容がローマカトリック教会の教えと一致していること。

二番目は、そのメッセージを伝えている人々が、教会に絶対的に従順する姿を見せていること。

三番目は、そのメッセージの内容が善的な実を結ぶようなものであること。喜び、一致、希望、幸福、従順の実りが見えなければなりません。

サタンが起こす実りの場合は、恐れと不従順です。

この3つのことが聖母マリア様の識別する基準です。

マリア様に対しての聖母信心には四つの種類があると申しあげましたが覚えているでしょうか。

一つは、無関心を持っている人々。

二番目は聖母マリアを理論的に分かっている人々。

三番目はまことの聖母信心であり、聖母マリアを母と呼び、体験ができる人々。

四番目は偽聖母信心としてサタンのいたずらを信じている人々。

です。

ありがとうございました。